

来年夏の参院選まであと一年に迫る中、道内与野党の候補者選考が遅れている。改選期を迎える参院議長伊達忠一氏（七九）が四選出馬に意欲を示し、小川勝也氏（五四）は無所属の長男（二二）逮捕、高橋はるみ知事（六四）の参院選転出説などが絡み合い、混沌とした状態に陥っている。

立憲民主党道連は六月中旬、参院選道選挙区（改選数三）に道議会副議長の勝部賢志氏（五八）は江別市を擁立する方針を決めた。勝部氏は北教組出身の「エース」とされ、連合北海道の全面支援を受けるとみられる。ただその一方で、立憲民主党道連を中心とした旧民進系は、候補二人を擁立する方針で、もう一人が見いだせない。現職の小川氏は、長男が保釈中に再逮捕。六年前の参院選で異例の四選出馬を果たし、かつては知事選候補にも名前があがった小川氏だが、労組関係者の間には「もう無理」との見方が強まる。

また、連合が勝部氏を全面支援する場合、もう一人の候補は自力での票集めが必要となる。二〇一六年の参院選では、連合は徳永エリ氏（五六）を全面支援。「二人目」に位置づけられた鉢呂吉雄氏（七〇）は高い知名度と経験をフルに生かし、何とか二人そろっての当選を果たした経緯もある。今回の参院選では「二人目」の候補として、石川知裕元衆院議員（四五）らの名前が取

## 「重鎮」が去った後で

りざたされるが、関係者は「相当な知名度がなければ、かなり難しい選挙になる」とみる。

一方の自民党サイドも候補二人を擁立する方針で、高橋知事と伊達氏の動きから目が話せない。

高橋知事は四選不出馬の意向を周囲に伝えているとされ、参院選道選挙区への転出の可能性が高いと目されている。道選挙区に立候補すれば、女性を中心とした高い人氣を背景に「知事が保守系支持層の票を集めてしまい、二人目の票がなくなってしまう」（関係者）懸念がある。

参院選道選挙区には、一六年参院選に自民党公認で立候補して僅差で敗れた前道議の柿木克弘氏（五〇）や、岩本剛人道議（五三）は札幌市清田区が、出馬に意欲を示し、党札幌市支部連合会が中川賢一札幌市議（五一）は中央区の推薦を決定している。しかし、伊達氏は自身の後援会の要望を受け形をつくり、「森喜朗元首相や安倍晋三首相にも相談したい」と最高権力者の名前まで出して「やる気」を示した。

参院ポストを求める道議らを中心に世代交代を求める声は多く、伊達氏に対して自民党関係者も「あり得ない」と閉口気味だが、相手は参院議長で、安倍首相や森元首相と関係が近い重鎮。「誰が首に鈴を付けるのか」とにらみ合いが続いている。

参院選だけでなく来春の知事選についても、自民党は高橋知事に代わる候補を見つけることができず、旧民進系も候補の選考作業は遅々として進まない。

かつては「ビッグ3」と呼ばれた町村信孝元官房長官、武部勤元幹事長（七七）、中川昭一元財務相が道内自民党のかじ取りをしていたが、町村氏、中川氏は死去し、武部氏は引退。旧民進系も精神的支柱だった横路孝弘元衆院議長（七七）が政界を退いた。これまでも候補者の擁立作業が難航したことはあった。○三年の道知事選で堀達也前知事（八二）が三選出馬を断念した時も、自民党は候補者選びに苦しんだが、町村氏らが前道経産局長の高橋氏を擁立。道議らから不満の声は漏れたが、その声を押し切って道政史上初の女性知事を誕生させた。横路氏も、民主党の誕生や政権交代などで存在感を発揮し、衆院議長まで務めた。

その跡を引き継いだ自民党道連会長の吉川貴盛氏（六七）、立憲民主党道連代表の佐々木隆博氏（六九）は、参院選、知事選の候補選考作業の中で、目立った動きはない。一六年参院選から道選挙区は定数が二から三に増え、与野党とも二人の当選を目指す選挙戦略が求められる中、吉川、佐々木両氏が指導力を発揮できるか、注目される。

ハ魚V